



【3月28日 彼岸会法要】

法誦 割「仏法」聴聞の心得 唱和

しんらん 同人

No.562
5・6
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

「祖先の命を大切に。自分の命を大切に。そして、他人の命を大切に。」「祖先を敬い。自分を敬い。そして、他人を敬う」

一方、自分の命を思えない者は、他人の命も大切に思えない。自分を思えない者は、他人も思えないではないでしょうか。

「因果応報」自分が創った原因によってその結果を自分が受けれる事は、納得のいくことではあります。現実の世界は多くの人々と繋がっています。また、改めて緊急事態宣言の中、隣接する地域が対象外だと言つて営業時間が制限されている地区的店舗で会食する人々。

時短営業後の街角で遅くまで密集し二次会を行つ人々。コロナの感染は感染者本人の被害で終わるのではなく、次は感染者自身が周囲の人々に対して加害者になるということを、真剣に考えなければならぬことがあります。

日本人のモラルの低下を嘆くの原稿を書きながら、一旦筆を置き、お寺にお参りにいらしゃつ

た方を池袋までお送りしてきました。その帰路に某私学があり、多くの新学期を迎えた学生が校内外にあふれていました。不意に五十数年前の私自身の学生時代を思い起しました。不意に五十数年前の私が一番楽しい時！充実した青春を過ごして下さい！感染には十二分に注意してね。若人のパワーと節度ある行動を信じたいと思いました。

モラル低下を嘆く矛先は国と自治体に向かいました。場当たり的なハ方美人の対策ではなく、痛みを伴つても抜本的な対策をお願いしたいと思いました。

ワクチン接種がやつと緒につきました。いつになつたら落ち着いた生活が送れるかは分かりませんが、阿弥陀様の慈愛の心は絶え間なく私達を見守つて下さり、お淨土への道はゆるぎないものであります。この安心をいただきながら、いましばらく我慢の日々を送りましょう。



誓願寺
初代住職
故岡本泰雄

法話

後生の一大事

「後生の一大事」という言葉は、かつてしばしば語られてきたものであるが、今日ではあまり問題にされなくなつたように思われる。

後生とは現世に対する後生の事であり、我々の死後の世界を指している。一大事とは二度とない唯一度の重大問題ということである。されば、未来世に淨土に往生する最も重大な問題ということになる。蓮如上人は「後生こそ一大事なり」とか「誰の人もはやく後生の一大事を心にかけて」等と仰せられている。

淨土真宗は往生淨土の教えであるから、淨土に往生することが重大な問題であることは言うまでもない。

しかるに、現今においては、現実の救いということや、念佛生活の実践ということが強調され、はなはだしきに至つては念佛を生活に生かせなどと呼ばれている。

極端に言うならば、未來淨土に生まれることなど、どうでもよいことであつて、現実の問題こそ重大であるというのである。

後生の一大事ではなく、現生の一大事と言いたいところなのである。

「後生の一大事」を軽視し、「現生の一大事」を強調する多くの

人々は、唯物論的思想に迎合しているのではなかろうか。うつかりすると、仏教徒が、仏教本来の意趣を破ろうとしてはいないであろうか。

淨土に往生することが古くさく、現代人に相應しないから、そのことに触れないというのなら、淨土往生の教えを説く淨土真宗ではなくなるわけである。淨土往生を除いては、淨土真宗は骨抜きになつてしまふのである。

仏教に顔をそむけている現代人に淨土真宗が受け入れられるようにならゆる手立てが尽くされる必要性については今更言うまでもない。だからといって、骨抜きになつた仏教が（それはもう仏教ではない）いくらく多くの人達に受け入れられたとしても、何の意味もないことである。

人々に受け入れられるために仏法が説かれるのではなく、迷える人々を救い実際に眼を開かしむるものこそ仏法である。
「後生の一大事」が現代人から嫌われ

るから説かないというなら、それはもう親鸞の遺弟ではない。眞実の教法を宣布するために努めているのではなくて、わが身を養うために努めていると考えられても仕方はあるまい。

仏（如來）は眞実の法を説いたもうたのである。親鸞聖人はこの眞実の法を聞信せられたのである。



真実の法は、如何なるものの力をもってしても、又如何なるものに よっても、曲げられたり、変更せられたりするものではない。いつ、いかなる時代にも変わるものではなく、いつわりのない法なればこそ、これ真実の法である。

仏（如來）は、迷える苦惱の衆生を淨土に往生せしめたいと願われたのであります。もし往生せしめることが出来ないならば如來とは成らぬと誓われたのである。



この誓願の成就によりて建立せられた所が淨土であり、真実の報土である。如來の国土であると共に煩惱具足の凡夫が往生させていただく國土である。如來の誓願によりて建立せられた世界、迷える衆生を生まれさせたいと誓うて成就せられた世界である。

如來の法が真実であるから、淨土もまた真実である。これを疑う自分自身が間違っているのである。

ただし、たしかに淨土が存在していて、そこに必ず往生出来ると自ら信じてゆくのではない。如來の教法が、如來の誓願が真実にましますから、淨土に生まれさせて頂くと信ずるのである。

されば「後生の一大事」は、一大事とも知らぬものが解決するも

のでなく、如來の光によって一大事と知らされ、如來の願力によつてこの一大事を解決していただくのである。

また後生の一大事の解決は、死に直面した時ではない。如來の本願を聞信したその時、解決されるのである。

後生の一大事が解決せられた人が白道を行く人である。

煩惱の波風は吹きまくつてゐる。その中を真つすぐに貫く道が白道である。

合掌

「法味抄」より

「法味抄」は、故岡本泰雄が真宗聖教中から要文を抜き出し、意訳した冊子です。聖語末の（一）内の文字は聖教の書名を略記したものです。

仏のみ名を聞くというのは、本願によつてつくられた南無阿彌陀仏のみ名を聞くことである。聞くということは、本願のいわれを聞いて疑う心のないことをいうのである。また、聞くというのは信心をあらわすものである。

（証文）

信心というとなにか難しいことのように思つてゐる。自分の思ひにあてがつて、「ああだ」「こうだ」と推し量つて難しいものにしている。それは自力の計らいである。親鸞聖人の仰せられる信心は「たのも」が信心である。

（御法話）

ご法座等
のご案内

誓願寺では定例法座を「第二日曜日 午前十時から」と
第四日曜日 午後一時から 次通り開催致します。
しかし、**関東地方にコロナによる自粛令が発令されています。**
る期間は、諸活動を中止致します。
詳細はホームページ等でご確認ください。

5月

5・9
(日)

コロナによる緊急事態宣言発出のため 法座・医療相談は中止致します。

6・13
(日)

午前十時
定例法座【上野隆平師】

医療相談(※縮小開催)

5・16
(日)

午前十時
なかよしクラブ
(乳幼児から小学生まで)

6・20
(日)

午前十時
なかよしクラブ
(乳幼児から小学生まで)

6月

5・23
(日)

午後一時
【濱畑慧僚師】
永代経法要 祥月命日合同法要

6・27
(日)

午後一時
【宗崎秀一師】
定例法座 祥月命日合同法要

編
集
後
記

[花まつりの花御堂]



今年の「来寺記念品」はマグカップです。定例法座の休座が続き皆様にお渡しできないのがもどかしく感じます。来年は十年目となります。区切りとなる物をと考え中です。

外出の機会が減り、会話場が少なくなた為か、ストレスが、年齢せいか、気が付くと、テレビに向かって話しかけている住職と坊守がいます。

買物等をまとめて行きますので、その際はお寺を留守にする事があります。お参りの時は前日にでもご連絡をいただければ幸いです。